

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 (注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	- (事務局用)	公共施設の活用を通じた多世代が輝くまちの実現	豊中市
チームがつけたアイデア名 (公開) (注2)	ヤギは庄内の通奏低音		

(注1) 地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 (公開)	こじメエ～		
チーム属性 (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数 (公開)	6 名		
代表者 (公開)	太田朱音		
メンバー (公開)	早坂 彩萌、増井 抄羽、三木 悠資、渡部 真菜美、西田 萌依		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募内容の公開＞

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認確認後 OK なら右に○印を記入➡○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこれです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

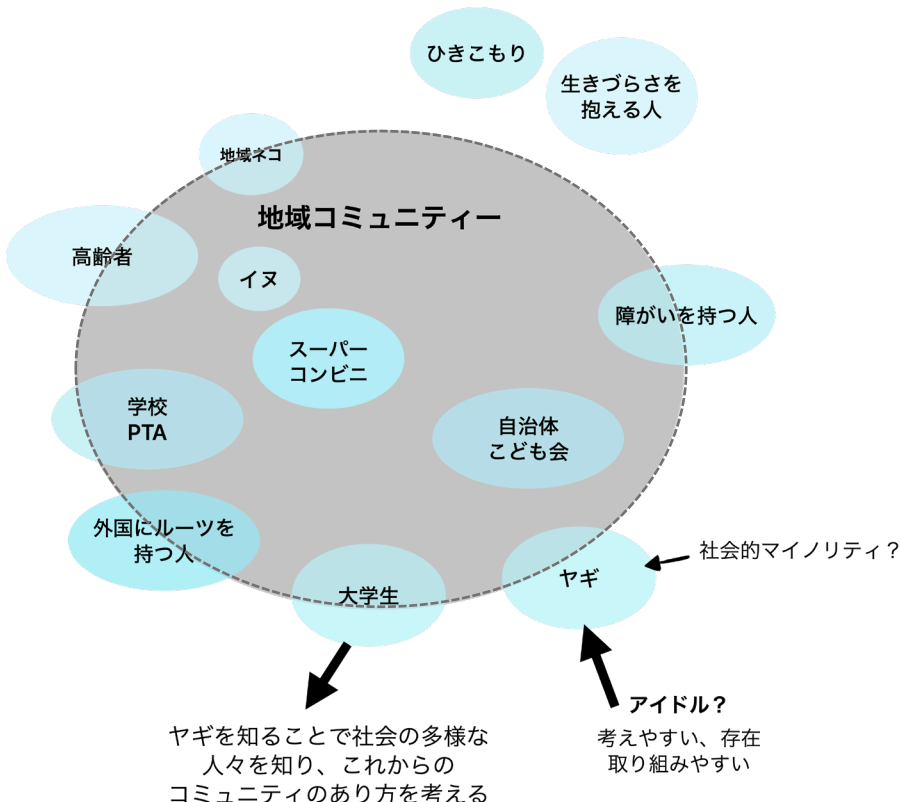
・包摂的社会的実現を分かりやすい視点から考え、取り組む。

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

ヤギを中心とした多世代が交流できるイベントを通して、動物の権利のみならず、社会的マイノリティを含めた包摂型社会の実現に向けた取り組みを市民とともに考える。





（参考：ヤギの「ミルク」）

■ 誰が？

音大学生、庄内コラボセンター（庄内図書館、庄内保健センター、介護予防センター、子育て支援センター南部分室、市民公益活動支援センター）、豊中市教育委員会

■ 誰に向けて

さくら学園の児童、生徒、ショコラを利用する市民、ヤギ好き(ハイジファン)など様々な市民

■ いつ？

春から秋にかけて（ヤギが除草員として活発に活動している間）

■ どこで？

ショコラのバルコニー、ショコラ施設内、豊中市南部地域

■ どのように？

2匹のヤギ（ビター、ミルク）をコミュニティの一員として受け入れる様々な活動を通じて、ヤギが都市において生きる権利を学ぶとともに、社会的マイノリティの立場にいる様々な人達を受け入れる社会づくりの仕方を学ぶ。

■ その具体的な活動として・・・

1) 人がヤギを知るためのイベント。（ヤギを知る。）

- ・触れ合い体験
- ・専門家からヤギの生態を学ぶ講座。

2) 市民がヤギを知れるプロモーションイベント（人が主体となっている）

- ・ヤギの似顔絵大会
- ・「ヤギ」ブランドのTシャツづくり
- ・地域各所への訪問（幼稚園、大学、高齢者施設、障害者施設、子ども食堂、豊南市場、商店街練り歩き）
- ・ライブハウスやコンサート、パレードなど

3) ヤギの権利をみんなで考える。（ヤギを主体として考える）

ヤギがコミュニティの一員であり、人間とヤギが支え合う関係性を目指したイベントの開催。

- ・ヤギが好きな料理の開発（結局は自然の草が良いかも。しかしあえてヤギの気持ちになって創作してみる）
- ・ヤギが着たい服の開発（結局は着たくないかも。しかしあえてヤギの気持ちになって創作してみる）
- ・ヤギが主人公の絵本、映画、演劇（本当は迷惑・・・？）

4) ゴールとして

包摂型社会の実現に向けたヤギ（人？）の存在の仕方について提案する

- ・住民票取得、マイナカード、放し飼いへの環境整備

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

『庄内コラボセンター「ショコラ」』は令和5年2月、豊中市庄内に設立された公共複合施設である。市役所の出張所のほかに、「カフェスペース」や「図書館」、母子が通う「保健センター」や相談窓口の「子育て支援センター」、高齢者が集う「介護予防センター」、などを有しており、その隣に併設されている小中一貫の義務教育学校「庄内さくら学園」と渡り廊下を共有している。

「ショコラ」では、2023年の秋より一時的に2頭のヤギを飼育し、渡り廊下付近のルコニースペースに繁茂した雑草をヤギによって駆除させる、実験的な取り組みを行っていた。この企画は、「ショコラ」が上記案を検討していた時期に当施設を訪問した学生が抱いた疑問から着想したものである。

当初、義務教育学校と「ショコラ」とを結ぶ渡り廊下は当初は児童生徒が自由に学校から出て、子ども教育相談窓口などに駆け込めるように、また居場所としてショコラを利用できるように考えて設計されたが、運用を開始してみると、学校へ通う児童生徒を含む施設の利用者は、防犯上の理由や管理運営の問題からそのスペースへ立ち入ることが許されておらず、ヤギのみが行き来を許されている状態である。そこで企画発案者である学生は「ヤギには許され、人間には許されない行為がある」ということに着目した。ヤギを「人権を考える際のメタファー」として用いることで、講座受講などの他の手法とは異なる切り口で人権や地域住民の多様な在り方について考えるきっかけとなり得ると想像している。

とはいえヤギから包摂的社会的の実現を目指すためには、様々なステップを経てヤギを身近に感じてもらう必要がある。そのため本企画では、目的とする「住民らが考え、創る、包摂的社会的の実現」に向けたプロセスをも含んでいる。また創立からまだ日が浅く、様々な利用方法が模索されている「ショコラ」を本企画の拠点とすることで、より馴染みのある場となることを目指す。

アイデア名の「通奏低音」はバロック期の伴奏方法で、「演奏家が即興的に和声の彩りを添えて演奏するもの」という意味がある。私たちは、ヤギはコミュニティの中に入ること、南部地域の彩りを添えてくれるのではないかと考えている。



(参考：バルコニーにてヤギが除草作業を行う様子)

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

○主体

予算上の都合により2つに分けられる。

- ・ショコラに属する各種団体（介護予防センター、庄内図書館、）と大阪音大で構成される実行委員会
- ・民間団体および、民間市民団体等で構成される実行委員会 など

○プロセス

ヤギの世話はショコラ職員、さくら学園の児童生徒、介護予防センターに通う高齢者、大阪音大ミュージックコミュニケーション専攻が行う。

1ST STEP: をヤギ学ぶ、ヤギを知る。（3ヶ月）

- ・触れ合い体験
- ・専門家からヤギの生態を学ぶ講座。

1年目

2ND STEP プロモーション展開

気軽に市民がヤギを知れるイベントの開催、

- ・似顔絵大会
- ・ヤギブランドのTシャツづくり
- ・家庭訪問、高齢者施設訪問
- ・ライブハウスやコンサートの出演

3rd STEP : ヤギの権利をみんなで考える。

マイノリティとしての存在を認め、彼らがコミュニティの一員であり、人間とヤギが支え合う立場として存在できるようなイベントの開催。

- ・ヤギが好きな料理の開発
- ・ヤギが着たい服の開発
- ・ヤギが主人公のご近所映画、演劇

2年目

ゴール：包摂型社会の実現に向けたヤギ（人？）の存在の仕方について行政に提案
住民票取得、マイナカード、放し飼いへの環境整備
（地域で見守る仕組みづくり等へ発想をつなげる）

○予算

・このような啓発系取り組みをすすめるにあたり、その予算を獲得するためには以下のような方法が考えられる。

- ・クラウドファンディング
- ・行政や民間の助成金
- ・地域の市民団体からの寄付や物品提供など

しかし、行政や民間からの助成金は多くの場合、行政団体に関わる事業には使われない可能性が非常に高い。

そのため啓発系取り組みとイベント系取り組みの実施団体を使い分けて、イベント系取り組みについては民間団体のみで構成するような工夫が必要となってくる。